

令和4年度 学校評価

伊予市立由並小学校

令和4年 12月

- 【評定基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:8割未満の達成
 【評価基準】 ◎:8割以上が肯定 ○:6割以上が肯定 △:6割未満が肯定
 【アンケート】 4:大変よい 3:よい 2:あまりよくない 1:よくない ? :無回答

※ 複数のアンケート資料がある場合には、それらの評価のうち一番低い評価をもって評定をしている。
 アンケート以外の資料がある場合については、その実現状況を加えて評定している。

項目	小項目(重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	集計結果(%)				
						評価	4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	一人一人が分かるできる喜びを味わい、やる気がわく授業づくりを進めているか 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	A	一人一台端末の効果的な活用や小集団での話し合い活動を意図的に取り入れ、自ら学んだり、互いに学び合ったりする時間を設定することで、やる気のわく授業づくりを進めている。また、学んだことをキーワードを使って自分の力でまとめる活動を取り入れることにより、理解の定着につながっている。今後、複式学級が増加するにあたって、指導者が授業を進めることができない時間帯に、どれだけ児童同士が学びを進めていけるかが重要なポイントとなると思われる。そのためにも、自力解決や学び合いの力を育てることが課題であり、どの学年でも集団解決の時間を意図的に設定し、取組を進めていきたい。	児童アンケート ◎ 56 40 2 2 教職員アンケート ◎ 50 50 0 0 保護者アンケート ◎ 35 49 12 4					
		学年の発達段階に応じた学力が身に付いているか 目標値:各種学力調査において国や県の平均値以上教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	B	単元別テストの知識・理解・技能面の正答率はほとんどの学年のほとんどの教科で8割を越えており、よく理解できているといえる。また、意図的に繰り返して復習の場を設定することで、単元の学習から時間が経過しても理解度が維持されるようになってきた。算数の知識・理解・技能面のまとめのテスト及び漢字の書き取りのまとめのテストを作成し学期末に実施するようにしたことで児童の実態を把握でき、必要に応じて学習内容の復習を行うことができた。今後も、学習したことが使える力として維持されるよう、実態把握とそれに伴った指導に努めたい。	児童アンケート ◎ 35 58 5 2 教職員アンケート ○ 0 75 25 0 保護者アンケート ◎ 26 63 9 2					
		互いの思いを伝え合う豊かな表現力が身に付いているか 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	A	道徳科でペアや小集団での話し合い活動を意図的に取り入れたり、校外学習や行事の後に振り返りの場を設定したりすることで、特に学級内では互いの思いを伝えやすい雰囲気づくりもできている。ただし、発達段階に応じた表現力においては課題もある。また、今年度は縦割り班での話し合い活動の時間を取ることができていなかったり、全校集会で伝え合う機会を設定することができていなかったため、異学年や全校の場で自分の思いを伝える力を育むことができなかった。その都度、自分の思いを詳しく説明できるよう指導に努めたい。また、来年度は、新型コロナウイルス感染症対策や行事の精選等も配慮しながら、異学年や全校で、自分の思いを伝える場の設定をしていきたい。	児童アンケート ◎ 53 33 14 0 教職員アンケート ◎ 0 100 0 0 保護者アンケート ◎ 26 54 16 5					
		進んで読書活動を実施し、読書習慣が身に付いているか 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	B	学級で週に1、2回、図書室を利用する時間を確保していることで、読書の時間を確保することはできているが、自ら進んで読書に親しむ姿勢はあまり育っていない。進んで昼休みに図書室に足を運んだり、学級文庫の本を手にとったりする児童が増えるよう、多読者を称揚したり、図書委員会を中心に働き掛けたり、定期定期的な学級文庫の入れ替えを行ったりするなどして、読書活動の推進に努めたい。	児童アンケート ◎ 47 44 9 0 教職員アンケート ○ 0 75 25 0 保護者アンケート △ 12 33 35 20					
		家庭学習の習慣が身に付いているか【(学年×10分+10分)以上】 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	B	全学級担任で、(学年×10分+10分)以上の家庭学習ができるような宿題の出し方について共通理解を図り、学級担任によって差が出ないようにしている。毎日の音読カードや生活チェック週間のカードを活用して家庭学習時間の把握を行っている。今後も、内容を工夫したり、量を調節したり、個に応じた対応をしたりして、家庭と連携しながら家庭学習習慣が定着するよう努めたい。	児童アンケート ◎ 67 28 5 0 教職員アンケート ◎ 50 50 0 0 保護者アンケート ○ 19 58 23 0					
		タブレットなどを活用して、情報を収集したり、適切に選んだりすることができていますか 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	B	一人一台端末が導入され、約1年が経った。児童も使い慣れており、様々な場面で活用している。また、高学年には算数科と外国語科のデジタル教科書が入っており、日常的に一人一台端末を活用している。しかし、調べる作業としての活用がまだ不十分であり、日常的に使える環境を整えていきたい。また、学力向上に向けた効果的な活用方法や学年に応じた系統的な指導を心掛けたい。	児童アンケート ◎ 58 26 14 2 教職員アンケート ○ 50 25 25 0 保護者アンケート △ 26 32 35 7					
		インターネット上の情報をうのみにせず、適切な情報が判断できていますか 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	B	愛媛県が作成している情報リテラシーの活用や特別の教科道徳にある情報モラルの内容を中心に継続して指導していく必要がある。今年度は学校保健安全委員会为爱媛県警の方を招き、タブレット等の正しい使い方を指導していただいた。その結果、児童の意識だけでなく、保護者の意識も高まった。このような機会も継続して取り入れていきたい。	児童アンケート ○ 58 21 9 12 教職員アンケート ○ 25 50 25 0 保護者アンケート ○ 9 51 23 9 8					
		学校関係者評価委員の所見	・少人数の特色を生かして、児童一人一人に合った教育実践が行われている。 ・個別指導、発表や発言、実習や実験などの体験活動をするのに、十分な時間が確保できる。 ・一人一台端末の使用に関して、家庭と連携していく上では、保護者へのデジタル教育も必要である。 ・限られた時間や教職員で多大な教育実践を行うと、不十分な部分も出てくるため、教育課程を見直し、精選することも大切である。併せて、複式での学習の在り方について、引き続き検討していく必要がある。	学校の対応	・引き続き、一人一台端末の効果的な活用方法について、教職員間での情報交換や研修を重ねていく。また、保護者へ一人一台端末に関する情報提供等を行う機会を増やし、保護者の理解を得ながら、学校と家庭がより連携して一人一台端末を活用し、確かな学力の向上・定着につなげていきたい。 ・教職員の数も年々減少している。その中で、どのような実践でどのような力を児童に身に付けさせるのかを踏まえて、教育課程の見直しを行い、行事等を精選していきたい。 ・複式での学習の仕方については、「伝え合い、学び合う」活動をうまく取り入れながら、一人一人の理解が深まるように工夫していきたい。					

教育課程・学習指導	心の教育の充実	児童の心に響く道徳教育を実施しているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	A	2学期は、運動会や校外学習等を実施することができた。互いのよさを認め合ったり、協力して取り組んだり、自己の目標に向かって努力したりする姿が見られた。また、地域の方やゲストティーチャーに触れ合ったり学んだりすることで、学びをより確かなものにした。自己の生き方について考える機会を得たりすることができた。各教育活動での道徳教育が児童の心に響くよう、児童の実態を踏まえ、意図的・計画的な実践に努めたい。また、家庭や地域と連携を図り、道徳教育の推進に努めたい。	児童アンケート	◎	56	40	4	0		
		教職員アンケート	◎	25	75	0	0					
		保護者アンケート	◎	42	56	2	0					
	明るい挨拶ができる児童が育っているか 目標値：教職員、児童、保護者、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	A	1学期に比べると元気な声で挨拶ができる児童が増えてきた。集団登校の時には、班長に続いて大きな声で挨拶ができている。運営委員会による「あいさつキララさん」運動によってさらに元気のよい挨拶が広がっている。今後も、「いつでも」「一人でも」「だれにでも」気持ちのよい挨拶ができるよう指導を続けたい。	児童アンケート	◎	60	31	7	2			
	教職員アンケート	◎	20	60	20	0						
	保護者アンケート	◎	44	49	7	0						
	地域住民アンケート	◎	60	40	0	0						
	縦割り班活動を生かした温かな集団づくりに努めているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	A	様々な学校行事を通して縦割り班での交流を深めることができた。上学年が下学年を思いやる姿も多く見られるようになってきている。縦割り班遊びなど児童の自主的な活動の時間を確保することができなかった。3学期はできるだけ活動の時間を設けていきたい。また、縄跳び集会やお別れ遠足、6年生を送る会などもあり、縦割り班での活動が多いので、さらに温かな集団づくりに繋げていきたい。	児童アンケート	◎	88	12	0	0			
	教職員アンケート	◎	20	80	0	0						
	保護者アンケート	◎	68	30	2	0						
健やかな心身の育成	「早ね・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	A	生活チェック週間の記録カードを通して、「早寝・早起き・朝ご飯」など、規則正しい生活習慣の定着を図っている。また、記録カードの得点が低い児童を中心に個別の健康相談を実施し、保健だよりを通して各学年の結果や課題を家庭に伝えるなど啓発に努めている。その結果、1学期末までには規則正しい生活を意識できる児童が増えていたが、9月の生活チェック結果から、夏休み中に生活リズムを大きく崩してしまっている児童が見受けられた。そのため、継続して個別の健康相談を実施し、生活改善のための方策を話し合い、家庭にも情報発信するなどした。冬休み前には、全員に健康相談を実施し、長期休業中の生活の仕方を意識できるようにした。また、学校保健安全委員会でもインターネットやオンラインゲームなどの使用における情報モラルについても意識できるようなテーマを選び、働きかける計画である。	児童アンケート	◎	67	28	0	5			
	教職員アンケート	◎	40	60	0	0						
	保護者アンケート	◎	53	40	7	0						
	運動や外遊びなど、進んで体を動かすことができているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	B	2学期は運動会練習や業間マラソンを通して、継続的に体を動かすことができた。また、低学年を中心に休み時間には積極的に外遊びをしている児童が多い。学級ごとになかよし遊びを設定し、外で遊ぶ姿も見られる。しかし、外で遊んでいる姿をあまり見かけない児童もいる。今後もなわとび集会に向けた練習や縦割り班遊びを計画し、外遊びを奨励したい。放課後は帰宅時刻が17時になったこともあり、あまり外遊びができていないようだ。	児童アンケート	◎	77	16	2	5			
	教職員アンケート	◎	60	40	0	0						
	保護者アンケート	○	30	40	28	2						
学年の発達段階に応じた体力が身に付いているか 目標値：新体力テストでC級の児童が80%以上 教職員、児童の80%以上が肯定(3・4)	A	体力の低下は愛媛県全体の課題である。体力アップ推進計画を基にした実践や各行事をきっかけに体力の底上げを目指したい。今年度も全学級がITスタジアムに参加している。他校と競い合う中で、友達と協力したり、切磋琢磨したりする姿が見られた。なわとび集会に向けた練習では、高学年を手本に低学年も積極的に練習に取り組むことができた。	児童アンケート	◎	60	26	14	0				
教職員アンケート	◎	20	60	20	0							
保護者アンケート	◎	37	47	14	2							
新体力テスト	○	A8	B14	C10	D9	E1						
自他の命を大切にしようとする態度が育っているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	A	道徳教育や縦割り班活動を通して、思いやりの心や豊かな人間関係の育成を目指しているが、2学期は十分な縦割り班活動の時間を持つことができなかった。行事等を精選・活用し、もっと触れ合える時間を確保できるようにしたい。人権・同和参観日では、授業だけでなく、集会でも高学年を中心に発表を行い、生命尊重やいじめ・差別を許さないことについて考えることができた。今後も、日常的な一人二鉢栽培や定期的な避難訓練を通して、自他の生命を守り、大切にできる態度を育てていきたい。	児童アンケート	◎	86	12	0	2				
教職員アンケート	◎	40	60	0	0							
保護者アンケート	◎	56	44	0	0							
学校関係者評価委員の所見	・夏休み中の児童のラジオ体操の姿が見えにくくなっていると感じる。そのことも含めて、学校と地域が情報共有を密にして、共にできる活動は協力して行うこともよい。	学校の対応	・毎月設定している生活チェック週間は、規則正しい生活習慣を児童が保護者と共に意識できるため、今後も継続していく。その中で、特にインターネットやオンラインゲーム等を行う時間を意識させたい。そして、長期休業中においても、生活リズムが乱れることのないように、普段から規則正しい生活を習慣化させていきたい。また、学校と地域が共にできる活動についても探していきたい。 ・体力アップについては、引き続き外遊びを奨励していくとともに、意欲的に体を動かせるような活動を様々な場面で取り入れていきたい。									

項目	小項目(重点目標)	評価	学校による考察・改善方策	評価資料							
				評価	集計結果 (%)						
					4	3	2	1			
安全管理	安全・安心な学校づくりの推進	避難訓練などを適切に実施して、児童や教師に安全対応能力が身に付いているか	A	様々な避難訓練(引き渡し/火災/休み時間/地震/土砂災害/津波/不審者対応)を実施することができた。火災の訓練のときには、通報訓練や消火訓練も併せて行った。起震車体験も別日に実施した。両日ともに、消防署の方々から専門的な立場から指導をしていただいた。このことにより、これまで以上に児童の防災意識を向上させることができたと考える。実際に訓練を行うことで、課題が明らかになり、安全確保のための対応について、改めて考えることもできた。今後も、児童・教職員の安全対応能力の向上につながる取組を行うようにしていきたい。	児童アンケート	◎	81	19	0	0	
		目標値: 教職員、児童、保護者の80%が肯定(3・4)			教職員アンケート	◎	60	40	0	0	
	家庭や地域との連携を密にした地域ぐるみの見守り活動ができていますか	A	毎月の交通安全の日や交通安全運動期間中などには、交番や地域の方、保護者が定期的に見守り活動を行ってくださっており、児童の安全確保につながり、大変ありがたい。伊予警察署の方にお話をいただいた防犯教室では、いざというときに身を守る方法について、児童はしっかりと考えることができた。今後も時と場に応じた安全指導に力を入れていきたい。	保護者アンケート	◎	67	33	0	0		
	目標値: 教職員、保護者、地域住民の80%が肯定(3・4)			教職員アンケート	◎	40	60	0	0		
				地域住民アンケート	◎	60	37	0	0	3	
				地域住民アンケート	◎	40	60	0	0		
	学校関係者評価委員の所見		・保護者と地域の方が連携して、見守り活動を続けていけるとよい。	学校の対応						・避難訓練だけでなく、様々な機会を捉えて児童への安全指導を継続し、安全対応能力を高めていきたい。また、「自分の命は自分で守る」という意識を持たせられるようにしていきたい。	
情報提供・保護者、地域住民等との関係	開かれた特色ある学校づくりの推進	地域の自然や文化、人々とのかかわりを大切にしたい学習ができていますか	A	十分とは言えないが、例年行っていた地域とのかかわりを大切にしたい学習を行うことができるようになってきた。生活科や総合的な学習、社会科などで、地域の施設に出向いて見学をしたり、地域の施設や人材を活用した学習を展開したりしている。直接触れ合ったり関わったりすることの学びは大きい。今後も、地域の自然や文化、人々とのかかわりを大切にしたい学習ができるように努めたい。	児童アンケート	◎	67	26	5	2	
		目標値: 教職員、児童、保護者、地域住民の80%以上が肯定(3・4)			教職員アンケート	◎	20	80	0	0	
		学校の教育活動に関する情報提供を積極的に行い、保護者や地域住民の理解を得ているか			A	ホームページにより、日々の学校での児童の活動を知らせることができた。閲覧数もかなり多くなっている。ホームページ以外にも学校便りを地域に回覧し、学校の様子を知っていただくための情報提供を行うことができた。今年度は、学校の様々な行事も通常通り行えることが増えてきており、今後も学校の様子を見ていただきながら地域・保護者と協力して教育活動を推進していきたい。	保護者アンケート	◎	67	33	0
	目標値: 教職員、保護者、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	地域住民アンケート	◎	100			0	0	0		
	公民館や老人会など、地域の関係団体との連携に努めているか	A	1学期同様、授業や行事等で、地域の関係団体の方に協力していただいている。昨年度と比べると、今年度は地域との活動も増えてきているが、コロナの影響で、中止になった行事もあった。コロナの影響があってもできることをいろいろと考えながら、できるだけ連携して取り組んでいきたい。	教職員アンケート	◎	40	40	20	0		
	目標値: 教職員、保護者、地域住民の80%以上が肯定(3・4)			保護者アンケート	◎	53	47	0	0		
					地域住民アンケート	◎	60	20	20	0	
	学校関係者評価委員の所見		・地域の人材や自然・伝統行事などを活用しての学習に積極的に取り組んでいる。 ・児童も前向きに地域行事に取り組んでいる。 ・コロナウイルス感染防止対策を取りながら、行事や地域との交流活動を回復していくとよい。	学校の対応						・昨年度と比べると、地域とかかわりを持ちながらの学習の機会が増えたことで、児童の理解がより深まった。しかし、コロナウイルス感染防止対策で、今年度もできなかった活動もあった。今後はさらに地域との活動ができるように、活動方法を工夫しながら進めていきたい。 ・ホームページの更新回数が増え、昨年度より学校の様子を伝えることができた。今後もホームページや学校便り等により、更に学校の情報を提供していけるように努めていく。	

組織運営	校内組織運営の充実・事務管理	<p>学校の教育目標の具現化に向けた学年のグランドデザインの立案・実践・評価・改善ができていますか</p> <p>目標値：教職員の80%が肯定(3・4)</p>	A	<p>教職員一人一人が教育目標を具現化するための具体的な目標を設定し、定期的に振り返っている。また、学期ごとに評価を行い、課題を検討し、よりよい実践に努めている。今後も教育目標の具現化に向けて教職員が連携、協力しながら取り組んでいくとともに、この取組を活用し、無理のない効果的な実践と評価ができるように努めていきたい。</p>	<p>教職員アンケート ◎ 50 50 0 0</p>
		<p>報告・連絡・相談・確認を密にして、組織として問題に対応しているか</p> <p>目標値：教職員の80%が肯定(3・4)</p>	A	<p>学校運営上の問題や生徒指導上の問題行動等が起きた場合は、速やかな管理職への報告を第一に行い、その指導に基づいて教職員が共通理解を徹底した上で早期対応に努めている。そして、現在、新型コロナウイルス感染症対策により行事等の計画の急な変更や児童、保護者への対応をしなければならないことがあるので、一層「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図り、組織的な対応に努めていきたい。</p>	<p>教職員アンケート ◎ 60 40 0 0</p>
		<p>校務分掌の適切な実施と情報管理ができていますか</p> <p>目標値：教職員の80%が肯定(3・4)</p>	A	<p>教職員の資質や能力、経験などを考慮して適切な校務の分担を行い、一部の教職員に過度の負担がかかりすぎないようにしている。しかし、教職員数の減少により、一人一人の負担が大きくなっているのも事実である。仕事の軽重をつけたり教職員間での連携、協力を密にしたりしながら取り組んでいきたい。情報管理については、管理職の指導のもと、個人情報の流出や紛失には十分に注意し、児童名簿の保管、USBのデータ管理等、セキュリティ管理の厳正化に努めている。</p>	<p>教職員アンケート ◎ 60 40 0 0</p>
		<p>教職員の業務改善に向けて、意識改革が進められ、具体的な取組がなされていますか。</p> <p>目標値：教職員の80%が肯定(3・4)</p>	B	<p>今年度は教職員数が減り、教職員一人一人への負担が増えている。そんな中、管理職を中心に多数の目で業務のチェックを行い、改善してきたが、抜本的な改革とは言えないので、行事の見直しや教職員数や児童数に応じた内容に工夫するなど、継続的に実施できるよう計画的に取り組みたい。</p>	<p>教職員アンケート ○ 0 60 40 0</p>
学校関係者評価委員の所見		学校の対応	<p>教職員一人一人が教育目標を具現化するための具体的な目標を設定し、目標に向かって取り組むとともに、定期的に振り返り、改善に努めている。また、問題が起きたときには、教職員が共通理解を徹底した上で早期対応を行っている。一方で、昨年度、一昨年度と徐々に教職員数が減り、教職員一人一人への負担が増えているため、更なる業務改善による負担軽減を行い、教職員が児童に向き合える時間を増やし、働きがいのある職場環境を整えたい。</p>		

項目	小項目(重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	集 計 結 果 (%)					
						評価	4	3	2	1	
研 修	教職員の資質・能力の向上	一人一人が学び合い、高め合う校内研修ができていますか 目標値:教職員の80%以上が肯定(3・4)	A	2学期は、「伝え合い、学び合う」活動を取り入れた授業を公開し合ったり、豊かな関わりを大切にしたい体験活動の充実に向け研修を行ったりした。授業研究部では、授業での伝え合う場の取り入れ方や発達段階に応じた話し合い方や聞き方の等について話し合った。環境研究部では、児童の実態調査から実態を把握したりキララさんカードの紹介を行ったりした。これらのことを、3学期に生かして行きたい。	教職員アンケート	◎	0	80	20	0	
		授業評価システムを生かし、授業改善を積極的に努めていますか 目標値:教職員の80%以上が肯定(3・4) 一人一回授業研究の実施	B	目標と指導と評価の一体化を目指し、チェックリストや授業評価シートを活用し、授業改善に取り組もうとしたが十分ではない。今学期も授業公開が予定されている。視点に沿った自己評価、相互評価を行い、授業改善に努めたい。	教職員アンケート	○	0	75	25	0	
		校外研修などに意欲的に参加しているか 目標値:教職員の80%以上が肯定(3・4) 一人一回以上研修の受講	A	校外での対面形式の研修や授業公開を含む研究会も増え、それぞれの校務に応じた研修会に参加し研修を深めることができた。しかし、一人が多くの校務や主任を抱えており、関連する研修会が重なったり、多くの研修会への参加が必要になったりすることがある。考えていかななくてはならない。	教職員アンケート	◎	40	40	20	0	
学校関係者評価委員の所見				学校の対応							・児童数減少に伴い、今後複式学級が増えることを踏まえ、「伝え合い、学び合う」活動を取り入れた授業についての研修を進めてきた。授業での伝え合う場の取り入れ方や発達段階に応じた話し合い方や聞き方の等について検討したことを基に、実践を重ねていき、児童によりよい学びを提供できるように努めていきたい。そして、実践の後には自己評価、相互評価を行い、授業改善に努め、教職員自身の資質・能力も高めていきたい。